スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県 白川町

自 治 体 名 ： 岐阜県白川町
担 当 課 名 ： 教育課
電 話 番 号 ： 0574-72-2317

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	237.89 ㎢
人口	6,927 人 (R6.12.1現在)
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	137 人
部活動数	11 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

1．本町の現状

・本町には２つの中学校があり、部活動変遷の歴史はそれぞれである。平成29年3月に「一般社団法人スポーツリンク白川」が発足して以降、学校部活動と連携した地域クラブ活動の運営主体としてその役割を果たしている。今後は学校再編（中学校の統合）を視野に入れ、平日の活動を含めた部活動の地域移行について、本町の実情に即した内容で進める必要がある。

2．本町の目標

・中学校統合を見据え、令和９年度から平日・休日ともに地域クラブとして実施する。
・令和５年度から令和８年度は段階的に移行していく。
○種目等
現在の種目を維持するとともに、スポ少の種目を続けられるよう工夫する。
多様なスポーツ活動、文化活動、多種目・多世代・多志向に対応するよう工夫する。
○運営団体
スポーツリンク白川が活動時間、場所、連絡、指導者確保等について運営する。

3．本町の課題

・地域指導者の確保や研修機会の充実のほか、統一的な謝金の在り方（財源の確保）、２つの中学校との連携（活動時間や活動場所など）が必要不可欠であり、運営団体となる一般社団法人スポーツリンク白川の体制強化が課題である。
※具体的には・・・クラブガイドラインの作成、中学校の部活動をどうするか、平日のクラブ終了後の帰宅バスをどうするか（休日の移動支援も含めて）、指導者謝金の財源確保、クラブ運営費の在り方、地域未来塾（学校地域協働活動）の継続と充実　など

4．本町の方向性

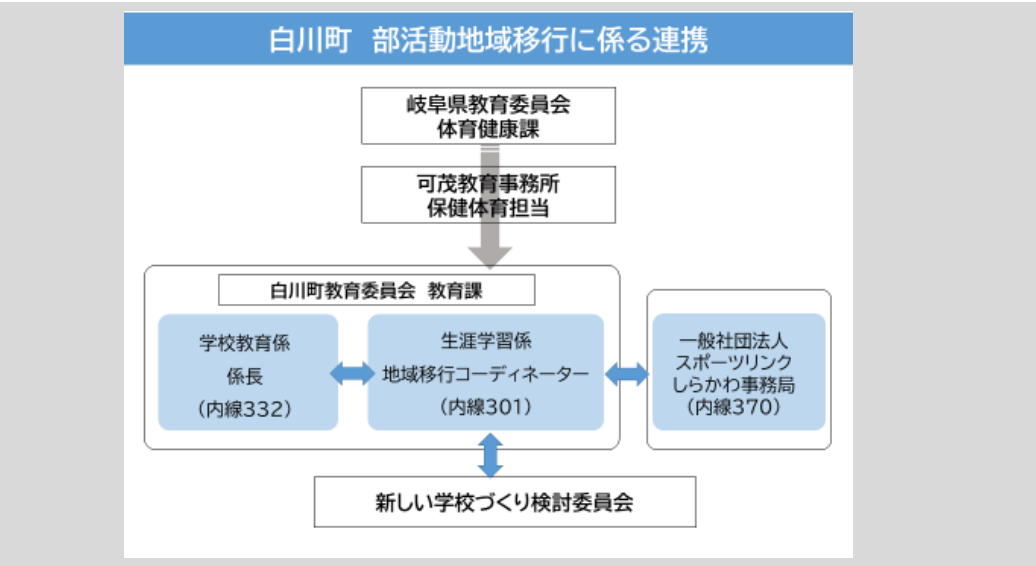
～部活動の地域移行（子どものスポーツ活動）を含めた「まち全体のスポーツ環境の整備」～
・町教育委員会、中学校、スポーツリンク白川など関係機関の連絡・調整役を担うコーディネーターを設置し、今後の方向性を踏まえた各種規定の整備を行う。更には中学校の統合を視野に入れた体制の整備について「新しい学校づくり検討委員会」等において協議・検討を進める。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

○教育委員会（学校教育係）

・白川町の部活動地域移行に係る窓口
・県担当課との連絡・連携
・「白川町新しい学校づくり検討委員会」の事務局

○教育委員会（生涯学習係）地域移行コーディネーター

・市町村コーディネーターの配置（兼務１名）
・各中学校及びスポーツリンク、関係機関との連絡・調整役

年間の事業スケジュール

令和６年４月	推進体制に関する内部協議
令和６年４月	国庫委託事業の実施（2年目）（R6地域ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ活動体制整備事業）
令和６年４月	佐見地区スポーツリンクバスの運行
令和６年７月	町部活動地域移行推進会議の開催（7/3開催　29名の参加）
令和６年９月	白川中学校部活動育成会への参加
令和６年１１月	第１１回新しい学校づくり検討委員会の開催（11/18開催）
令和６年１２月	令和７年度予算検討・要求
令和７年２・３月	地域指導者謝金の支払い
随時	関係機関との打ち合わせ
随時	可茂地区コーディネーターとの定期打ち合わせ

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	２校	実施した地域クラブ総数	７ クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		５クラブ（５ 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		２クラブ（NEXUS、BLAZE含む）
全体の指導者数	２０人（R6.12現在）	全体の運営スタッフ数	各クラブ保護者代表　７名

②各クラブに関すること（白川中学校）

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	大会参加方法
野球	地域スポーツ団体等運営型	軟式野球	平日２日間 土日どちらか	平日：夜間 休日：日中	１年生２名	通年	川辺中グラウンドほか	２ 人	１ 人 ※川辺中等との合同チーム	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
男子バスケットボール	地域スポーツ団体等運営型	バスケットボール	平日２日間 土日どちらか	平日：夜間 休日：日中	１年生５名 ２年生３名	通年	白川中体育館ほか	４ 人	１ 人	中体連：部活動 その他：地域クラブ
女子バスケットボール	地域スポーツ団体等運営型	バスケットボール	平日２日間 土日どちらか	平日：夜間 休日：日中	１年生０名 ２年生０名	通年	白川中体育館ほか	３ 人	１ 人	※現在休部中
女子バレーボール	地域スポーツ団体等運営型	バレーボール	平日２日間 土日どちらか	平日：夜間 休日：日中	１年生５名 ２年生７名	通年	白川中体育館ほか	２ 人	１ 人	中体連：部活動 その他：地域クラブ
男女剣道	地域スポーツ団体等運営型	剣道	平日１日間 土日どちらか	平日：夜間 休日：日中	１年生１名 ２年生５名	通年	白川中柔剣道場ほか	４ 人	１ 人	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
男子バレーボール（NEXUS）	地域スポーツ団体等運営型	バレーボール	平日２日間 土日どちらか	平日：夜間 休日：日中	１年生５名 ２年生８名	通年	白川中体育館ほか	４ 人	１ 人	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
女子ソフトボール（BLAZE）	地域スポーツ団体等運営型	ソフトボール	平日２日間 土日どちらか	平日：夜間 休日：日中	１年生２名 ２年生２名	通年	白川中グラウンドほか	１ 人	１人	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

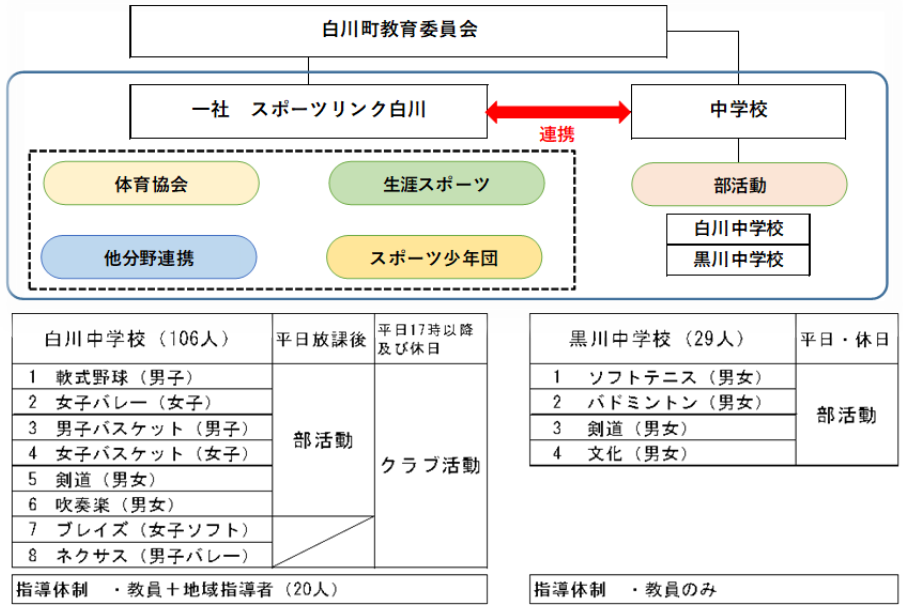
スポーツ庁

主な取組例

●スポーツリンク　クラブ活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、バスケットボール、バレーボール、剣道、ソフトボール、吹奏楽
運営団体名	（一社）スポーツリンク白川
期間と日数	平日：週に２回程度（１回２時間） 休日：週に１回程度（１日３時間）
指導者の主な属性	学校長及びスポーツリンク白川が委嘱する地域指導者
活動場所	町内（白川中学校体育館・グラウンド）ほか
主な移動手段	保護者による送迎又は町が運行するバス（佐見地区スポリンバス）
１人あたりの参加会費等（年額）	スポーツリンク年会費： （中学生）1,000円 各クラブの会費： 30,000円～36,000円程度
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●指導者

役割：クラブ員に対する技術指導等を行う

●クラブ代表者　１名（保護者代表）

役割：クラブ全般の運営及び学校・指導者等との連絡調整を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○教員OBによる「部活動地域移行コーディネータを配置し、運営団体（スポーツリンク白川）、各中学校、各クラブとの調整・連携を図った。

○R6.7.3　町部活動地域移行推進会議を開催し、「子どもたちのスポーツ環境のあり方」についてワークショップを開催した。

○R6.11.18　第11回新しい学校づくり検討委員会を開催し、「今後の児童生徒のスポーツ・文化活動のあり方」を検討した。

取組の成果

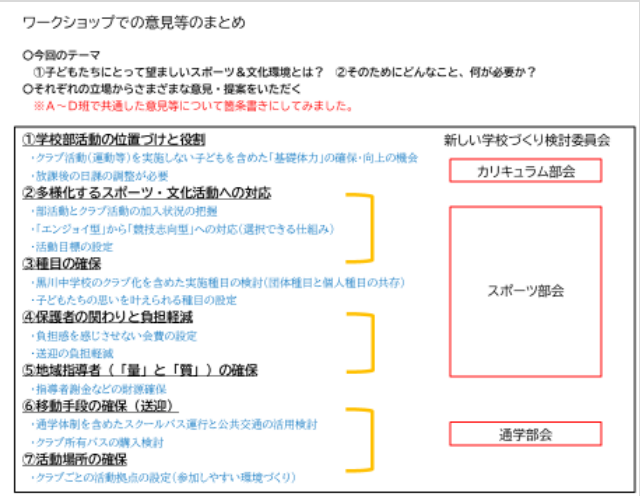
○コーディネーターを配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○諸課題に関しては、コーディネーターが調整役となり、課題解決に向けた話し合いの機会を持つことができた。

○中学校区を超えた参加者の情報交換・意見交流の場を持つことができた。

○7.3開催のワークショップで出された意見や課題等に関し、11.18開催の新しい学校づくり検討委員会での検討に繋げることができた。

7/3 町部活動地域移行推進会議でのワークショップで出された意見


ワークショップでの意見等のまとめ

○今回のテーマ
①子どもたちにとって望ましいスポーツ＆文化環境とは？　②そのためにどんなこと、何が必要か？
○それぞれの立場からさまざまな意見・提案をいただく
※A～D班で共通した意見等について箇条書きにしてみました。

①学校部活動の位置づけと役割
・クラブ活動（運動等）を実施しない子どもを含めた「基礎体力」の確保・向上の機会
・放課後の日課の調整が必要
②多様化するスポーツ・文化活動への対応
・部活動とクラブ活動の加入状況の把握
・「エンジョイ型」から「競技志向型」への対応（選択できる仕組み）
・活動目標の設定
③種目の確保
・黒川中学校のクラブ化を含めた実施種目の検討（団体種目と個人種目の共存）
・子どもたちの思いを叶えられる種目の設定
④保護者の関わりと負担軽減
・負担感を感じさせない会費の設定
・送迎の負担軽減
⑤地域指導者（「量」と「質」）の確保
・指導者謝金などの財源確保
⑥移動手段の確保（送迎）
・通学体制を含めたスクールバス運行と公共交通の活用検討
・クラブ所有バスの購入検討
⑦活動場所の確保
・クラブごとの活動拠点の設定（参加しやすい環境づくり）

新しい学校づくり検討委員会
カリキュラム部会
スポーツ部会
通学部会

コーディネーターの具体的な動きの実績

・県の可茂地区コーディネーター、運営団体、町担当者との定期的な情報交換の場を持つことができた。

・中学校部活動育成会に参加し、町からの情報提供とあわせ、地域移行に関する意見・質疑等を伺った。

今後の課題と対応方針

・単独の市町村では成立しないクラブ活動（例：白川中学校野球クラブ）に関し、相手先との連絡調整・課題解決に向けてコーディネーターが調整役を果たす必要がある。

・令和１１年度に統合が予定されている黒川中学校の地域移行に関して、学校関係者・PTA等との円滑な協議を進めていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○令和６年４月以降の指導に関し、指導記録簿を作成し、それを基に指導者謝金の支給を行った。

○令和５，６年度の２年間の実施により地域クラブ運営のための謝金必要額（指導回数・指導時間数）を把握するとともに、謝金単価を検証することができた。

地域指導者数

20名（R6.12現在）

地域指導者の年齢構成

20代	２名
30代	４名
40代	６名
50代	５名
60代以上	３名

登録者属性

○職業
・会社員　１２名
（うち公務員　５名）
・教員　４名
・自営業　４名

種目

・軟式野球
・バスケットボール
・バレーボール
・剣道
・ソフトボール

登録方法

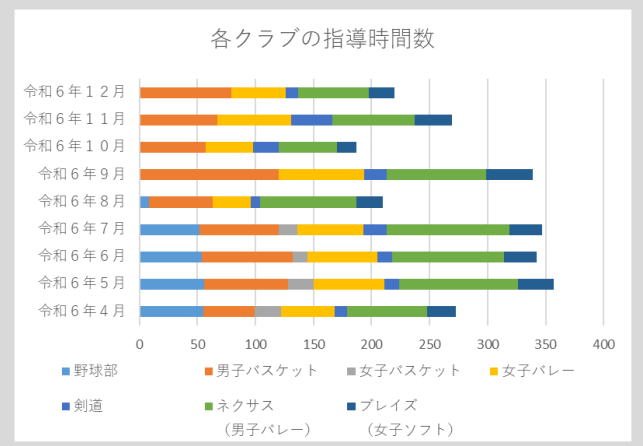
○地域指導者の委嘱
・クラブ代表者（保護者会長）は、地域指導者の承諾を得たうえで学校及びスポーツリンク白川宛に推薦書を提出する。
（任期は、１年間）

取組の成果

令和６年度地域指導者謝金の状況（R6.12月分まで）

１．指導回数　1,198回
２．総指導時間数　3,716時間
３．支払時間数　2,544時間
４．時間単価　400円
５．謝金支払額　1,017,600円
６．年間見込み　1,340,000円
（3,350時間×400円）

※時間単価1,000円の場合　3,350千円



今後の課題と対応方針

○地域指導者の指導が献身的で生徒の満足度が高い指導が根付いており、今後も学校、保護者会、地域と連携し、更なる指導者確保に努める必要がある。

○指導状況の把握により、年間の指導回数、指導時間数、謝金額を想定することができた。この成果をもとに持続可能な謝金体系を構築する必要がある。（謝金単価の設定、財源の確保など）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○地域公共交通との連携に関する取り組み

①町によるスポーツリンクバスの運行（佐見地区）

②町営自家用有償運送の仕組みを利用した移動手段の確保（佐見地区）

○長期休暇中（夏休み・春休み）における移動手段の確保

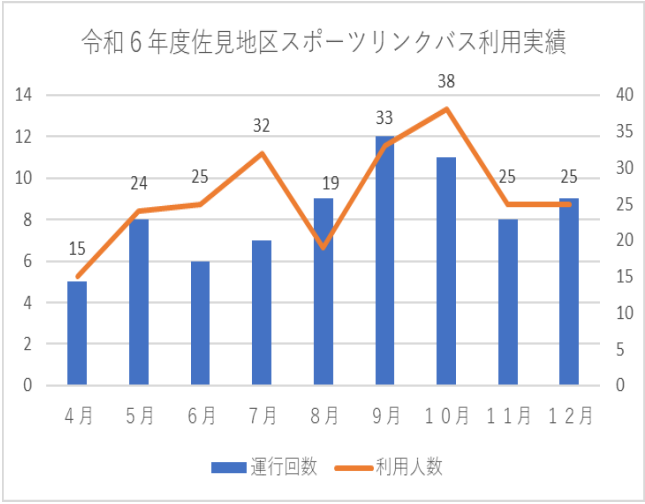
取組の成果

○白川中学校部活動育成会との連携

・スポーツリンクバスの運行に関しては、白川中学校部活動育成会において保護者代表及び地域指導者（顧問）との情報共有を行い、バスセンターとの連絡調整等を依頼した。

○地域公共交通との連携

・長期休業期間中（夏休み等）における送迎として、片道（行き）のみ町によるスクールバス運行を行ったが、帰りについては、保護者による送迎のほか、地域公共交通との連携で帰宅の手段を確保することができた。



バス等の運行実績

・運行日数　75日間（R6.4～12）
・利用者数　236人（延べ人数）
・運行経費　841,500円
・1回あたり　11,220円
・1人あたり　3,565円

バスの運行ルート図



今後の課題と対応方針

○現在は、スポーツリンク白川の活動における佐見地区のみの限定した対応（遠距離通学に伴う特例措置）であり、今後、中学校の統合を見据えた対応が課題である。

○移動手段の確保は保護者にとって必要不可欠であり、高校生の帰宅手段とあわせて地域公共交通との連携を図る。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・本町のような小規模校では、生徒数が減少し、部活動が成立しない（特に団体種目における廃部）、教職員も少なく専門的な指導ができないなどの問題がある。本町では、早くから「チャオ白川スポルトクラブ」（平成20年設立～平成28年）や「スポーツリンク白川」（平成29年）等の組織を立ち上げ、地域クラブの動きを先行して創ってきたが、白川中学校と黒川中学校では学校規模、生徒数等、かなりの違いがある。そこで、中学校統合を見据え、今後の地域クラブの方針を次のように考えている。

１．クラブ活動

・平日、休日ともに地域クラブとして実施する。

２．種類等

・現在の種目を維持するとともに、スポーツ少年団の種目を続けられるよう工夫する。

・多様なスポーツ活動、文化活動、多種目・多世代・多志向に対応するよう工夫する。

３．運営団体

・スポーツリンク白川が活動時間、場所、連絡、指導者確保など管理している。

●成果の評価

（１）運営団体の存在

・本町のスポーツ振興の担い手である一般社団法人スポーツリンク白川が本町の部活動地域移行の運営団体として体制が整っている。

（２）確立された指導体制

・各地域クラブ（保護者）、学校、スポーツリンクの連携により、スポーツを行う子どもたちにとって理想的な指導者体制が確立されている。

（３）指導者謝金の支給・検証

・実証事業の活用により、地域指導者への謝金を支給することができた。
また、年間の指導回数や指導時間を把握することができ、今後の謝金体制の参考とする。

●今後に向けて

・２年間の実証事業の成果をもとに、白川町にとって持続可能な地域移行のあり方を検討するとともに、次の課題に対応する。

○基本方針

・これまでの白川町の部活動の歩みと精神を受け継ぎ、今後も子どもたちがスポーツ・文化活動ができる環境を構築する。

○具体的な対応

・新しい学校づくり検討委員会（及び専門部会）において関係者との協議を進める。
しかし、部活動改革には送迎の問題、学校の日課との関連、指導者の確保と研修、財源の確保など、非常に多くの課題があるので慎重に協議を進める。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報資料

令和６年１１月から１２月にかけて町内５地区で開催したまちづくり懇談会において、学校再編の方針とあわせて「部活や地域クラブ」について今後の方向性を示した。



地域説明会資料　　令和６年10月 白川町教育委員会作成

白川町の学校再編と小・中学校一貫教育

1　白川町の教育課題と学校再編の方針

教育行政的視点からの３つの課題
・少子化
・施設の老朽化
・通学の負担
→ 総合的な対策が必要

学校再編の方針
左記の課題を解決するために、「統合」と「存続」そして「校舎建設」を組み合わせ、子どもたちによりよい教育環境を提供します。

2　学校再編の計画（案）

下図は将来的な学校配置と校舎建設の計画(案)です。
学校配置は、計画的に「統合」と「存続」を実施し、令和９年度に「３小学校２中学校」に、そして令和11年度には「３小学校１中学校」の配置を目指しています。
校舎は7~9年度で「施設一体型小中学校」を建設します。将来的に子どもの人数が減り、教室に余裕が出てきたら廃棄館を入れた複合施設を構想しています。

	6年度		11年度
学校配置	4小学校 2中学校	計画的に「統合」と「存続」を実施 (一部統合(3小2中))	3小学校 1中学校
校舎建設	6年度	7・8年度	9年度
	設計	1期工事	引越し 既存校舎解体	2期工事

右図は新校舎のイメージです。
新校舎は「ふるさとを心に刻み、存在感あふれる白川町の子どもを育てる学校」となるよう、下記の３つの方針で進めます。
①児童生徒や地域との交流・協働が生まれ、小中一貫教育の実施に適した学校
②安全・安心で誰もが使いやすく、多様性に対応したインクルーシブ（社会的に包摂）な学校
③自然や周辺環境に調和し、ライフサイクルコスト（建物の生涯に要する経費）に配慮した学校

外観のイメージ

内観のイメージ

3　再編に伴う改善事項（案）

学校配置や校舎建設に伴い、子どもたちの教育環境をよりよくするため多くの事項を検討しています。

(1) 通学やクラブ活動の帰りについて（施設一体型小中学校の場合）
①スクールバス通学
登校…小中学生が一緒にバスに乗って登校します。８時ごろ学校着の予定。
下校…小学生は４時ごろ学校発、中学生は５時ごろ学校発の予定。
②クラブ活動終了後のバス（現在は国の補助事業を使い、佐見地区だけに運行）
高校生が利用しているバスに同乗することを検討しています。
③自転車通学
これまでの遠距離通学補助（片道6km以上の自転車通学）の在り方について検討しています。
④土・日・祝日のクラブ活動の送迎
個人対応の予定です。

(2) 小中一貫教育について
統合により地域から学校が無くなると、それまで学校と地域で創り上げてきたものすべてが無くなるかのように思われがちですが、そうではありません。統合前の文化や伝統は新しい学校に引継ぎ、新しい計画（カリキュラム）や方法で小中一貫教育を実施します。統合した新しい学校が地域の学校という視点に立っていただき、これからもご協力をお願いします。

白川町ならではの体験を通して
運動遊び、一輪車、体育授業、部活・クラブ、食教育、歯と口の健康づくり
読み聞かせ、読書活動、教科・道徳・英語など言語を使うすべての活動
ふるさと教育（自然体験、伝統文化活動、栽培・制作活動など総合的な学習）
→ 元気でしなやかに生きる力 身体づくり 言葉を育て「志の芽」を培う

保育園
小学校
それぞれの校区で「ふるさと白川」をたっぷりと体験するカリキュラム
（地域の人の力を借りる。子どもと地域との関わりを強化する。）
中学校
小学校の体験を土台として、「探求力」や「課題解決力」を身に付けるカリキュラム
（生徒が課題を選択し追求する。地域の専門的な講師を依頼する。）

(3) 小中一貫教育の指導体制について
近い目標である「３小１中」配置になった場合の指導体制について右図をもとに説明します。

① 施設一体型小中学校では（右図の上）
職員室を１つにし、小・中学校の教員が子どもに関わる情報交流を自然にできるようにします。また、子どもにとっても多くの先生に接することができ、中１ギャップの解消につながります。
小から中へ、中から小へ、教員が乗り入れて指導することで、より専門的な授業が受けられます。
縦割り集団による活動は小中合同で実施することができます。
② 単独の小学校では（右図の下）
通学に時間をかけず、身近な自然・社会環境の中で学習するようにします。複式学級になりますが、非常勤講師の配置により複式授業を減らします。少人数のため、校外学習にもすぐ出かけられます。大人数で活動したい時は施設一体型の小中学校と連携します。

(4) 部活や地域クラブについて
白川町のような小規模校では、生徒数が減り部活動が成立しない（廃部となる）、教職員も少なく専門的な指導ができないなどの問題があります。
白川町は早くからスポルトクラブやスポーツリンクという組織を立ち上げ、地域クラブの動きを創ってきましたが、白川中と黒川中ではかなり実態が違います。そこで、中学校統合を見据え、今後の地域クラブの方針を次のように考えています。しかし、部活動改革には送迎の問題、学校の日課との関連、指導者の確保と研修、財源の確保など、非常に多くの課題があります。

・平日・休日共に地域クラブとして実施する。
・種類等：現在の種目を維持すると共にスポ少の種目を続けられるよう工夫する。多様なスポーツ活動・文化活動、多種目・多世代・多志向に対応するよう工夫する。
・運営主体：「スポーツリンク白川」が活動時間、場所、連絡、指導者確保など運営する。

(5) その他
(1)~(4)の他に緊急的な早下校の対応、体調不良等による引き渡し、学用品、中学生の制服、学校徴収金、PTA 組織・活動や地域学校協働本部の在り方など、統合前には多くの検討事項があります。また、統合後も想定内、想定外の問題が発生し、その都度解決が求められます。
これらについて「新しい学校づくり検討委員会」や「統合準備委員会」などで一つ一つ協議し、その結果を報告していきます。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

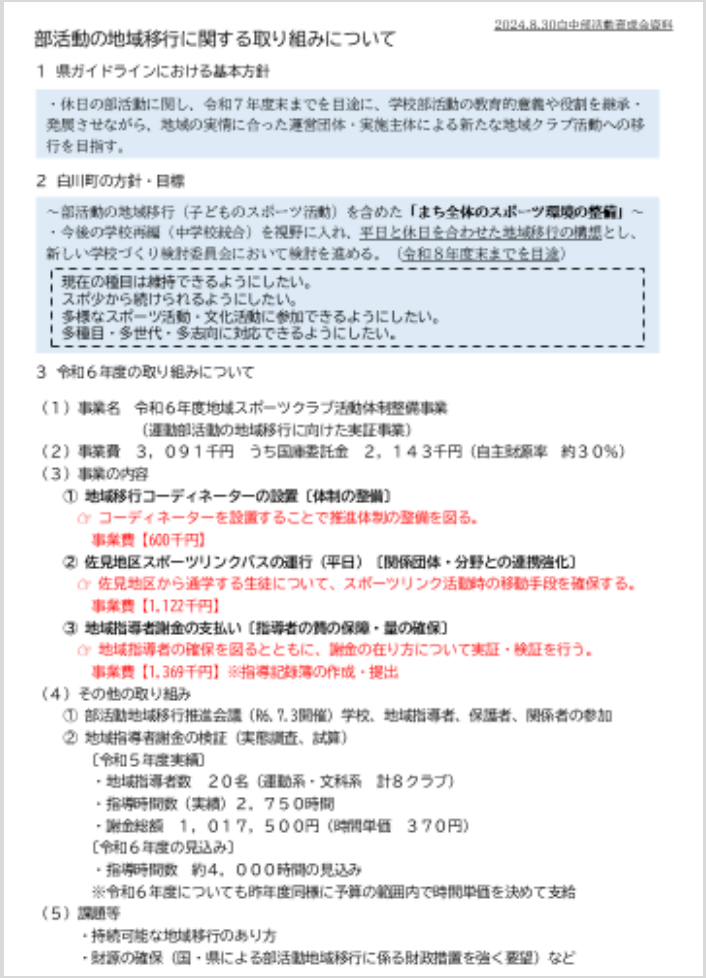
【懇談会配布資料】

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報資料

令和６年８月３０日に開催された白川中学校部活動育成会に参加し、　いて各クラブ保護者代表への説明を行った。
部活動地域移行の現状と課題、佐見地区スポーツリンクバスの運行につ



2024.8.30白中部活動育成会資料

部活動の地域移行に関する取り組みについて

1 県ガイドラインにおける基本方針

・休日の部活動に関し、令和７年度末までを目途に、学校部活動の教育的意義や役割を継承・発展させながら、地域の実情に合った運営団体・実施主体による新たな地域クラブ活動への移行を目指す。

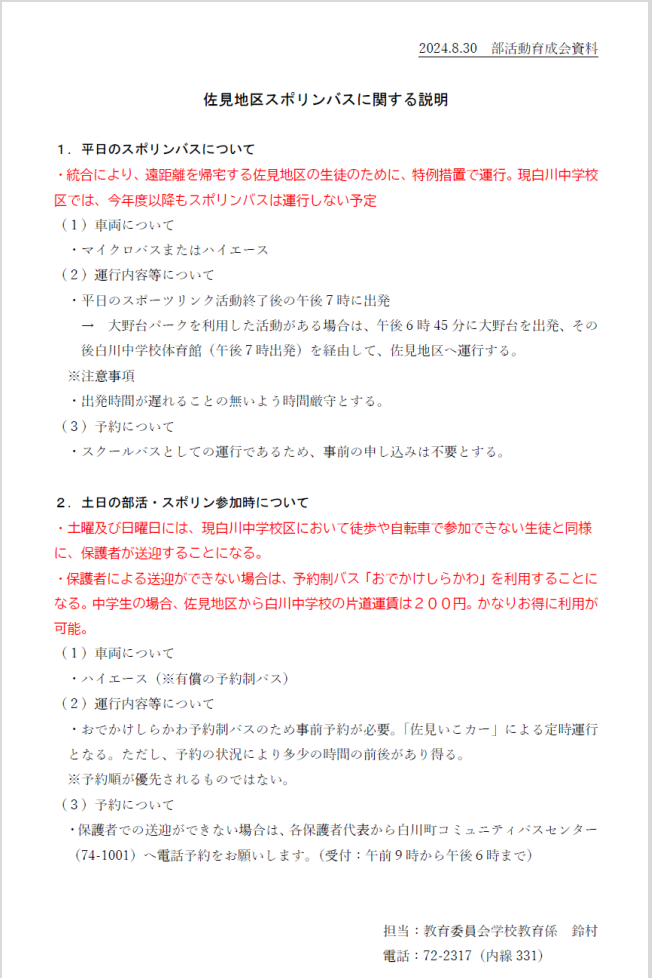
2 白川町の方針・目標

～部活動の地域移行（子どものスポーツ活動）を含めた**「まち全体のスポーツ環境の整備」**～
・今後の学校再編（中学校統合）を視野に入れ、平日と休日を合わせた地域移行の構想とし、新しい学校づくり検討委員会において検討を進める。（令和８年度末までを目途）

現在の種目は維持できるようにしたい。
スポ少から続けられるようにしたい。
多様なスポーツ活動・文化活動に参加できるようにしたい。
多種目・多世代・多志向に対応できるようにしたい。

3 令和６年度の取り組みについて

（1）事業名　令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）
（2）事業費　3，091千円　うち国庫委託金　2，143千円（自主財源率　約30%）
（3）事業の内容
① 地域移行コーディネーターの設置〔体制の整備〕
☞ コーディネーターを設置することで推進体制の整備を図る。
事業費【600千円】
② 佐見地区スポーツリンクバスの運行（平日）〔関係団体・分野との連携強化〕
☞ 佐見地区から通学する生徒について、スポーツリンク活動時の移動手段を確保する。
事業費【1,122千円】
③ 地域指導者謝金の支払い〔指導者の質の保障・量の確保〕
☞ 地域指導者の確保を図るとともに、謝金の在り方について実証・検証を行う。
事業費【1,369千円】※指導記録簿の作成・提出
（4）その他の取り組み
① 部活動地域移行推進会議（R6,7,3開催）学校、地域指導者、保護者、関係者の参加
② 地域指導者謝金の検証（実態調査、試算）
〔令和５年度実績〕
・地域指導者数　20名（運動系・文科系　計8クラブ）
・指導時間数（実績）2，750時間
・謝金総額　1，017，500円（時間単価　370円）
〔令和６年度の見込み〕
・指導時間数　約4，000時間の見込み
※令和６年度についても昨年度同様に予算の範囲内で時間単価を決めて支給
（5）課題等
・持続可能な地域移行のあり方
・財源の確保（国・県による部活動地域移行に係る財政措置を強く要望）など



2024.8.30　部活動育成会資料

佐見地区スポリンバスに関する説明

1．平日のスポリンバスについて
・統合により、遠距離を帰宅する佐見地区の生徒のために、特例措置で運行。現白川中学校区では、今年度以降もスポリンバスは運行しない予定
（1）車両について
・マイクロバスまたはハイエース
（2）運行内容等について
・平日のスポーツリンク活動終了後の午後７時に出発
→　大野台パークを利用した活動がある場合は、午後６時45分に大野台を出発、その後白川中学校体育館（午後７時出発）を経由して、佐見地区へ運行する。
※注意事項
・出発時間が遅れることの無いよう時間厳守とする。
（3）予約について
・スクールバスとしての運行であるため、事前の申し込みは不要とする。

2．土日の部活・スポリン参加時について
・土曜及び日曜日には、現白川中学校区において徒歩や自転車で参加できない生徒と同様に、保護者が送迎することになる。
・保護者による送迎ができない場合は、予約制バス「おでかけしらかわ」を利用することになる。中学生の場合、佐見地区から白川中学校の片道運賃は２００円。かなりお得に利用が可能。
（1）車両について
・ハイエース（※有償の予約制バス）
（2）運行内容等について
・おでかけしらかわ予約制バスのため事前予約が必要。「佐見いこカー」による定時運行となる。ただし、予約の状況により多少の時間の前後があり得る。
※予約順が優先されるものではない。
（3）予約について
・保護者での送迎ができない場合は、各保護者代表から白川町コミュニティバスセンター（74-1001）へ電話予約をお願いします。（受付：午前９時から午後６時まで）

担当：教育委員会学校教育係　鈴村
電話：72-2317（内線 331）

【懇談会配布資料】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

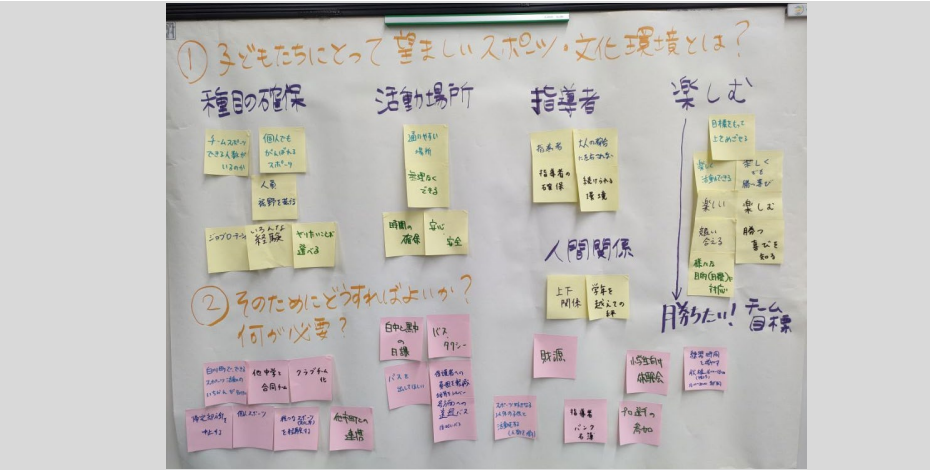
参考資料（活動写真）



【R6.7.3　部活動地域移行推進会議の様子①】



【R6.7.3　部活動地域移行推進会議の様子②】



【ワークショップによる検討結果】

ワークショップでの意見等のまとめ
○今回のテーマ
　①子どもたちにとって望ましいスポーツ＆文化環境とは？　②そのためにどんなこと、何が必要か？
○それぞれの立場からさまざまな意見・提案をいただく

①学校部活動の位置づけと役割
- クラブ活動（運動等）を実施しない子どもを含めた「基礎体力」の確保・向上の機会
- 放課後の日課の調整が必要

②多様化するスポーツ・文化活動への対応
- 部活動とクラブ活動の加入状況の把握
- 「エンジョイ型」から「競技志向型」への対応（選択できる仕組み）
- 活動目標の設定

③種目の確保
- 黒川中学校のクラブ化を含めた実施種目の検討（団体種目と個人種目の共存）
- 子どもたちの思いを叶えられる種目の設定

④保護者の関わりと負担軽減
- 負担感を感じさせない会費の設定
- 送迎の負担軽減

⑤地域指導者（「量」と「質」）の確保
- 指導者謝金などの財源確保

⑥移動手段の確保（送迎）
- 通学体制を含めたスクールバス運行と公共交通の活用検討
- クラブ所有バスの購入検討

⑦活動場所の確保
- クラブごとの活動拠点の設定（参加しやすい環境づくり）

【ワークショップで出された意見】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）





【佐見中学校との統合により活動が充実した男子バスケットボールクラブ】





【指導体制が充実している剣道部クラブ】



【7年目を迎えた女子ソフトボールクラブ】



【活動終了後（平日）の移動手段「佐見地区スポーツリンクバス」】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年		令和６年	令和７年	令和８年	令和９年
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ設置、検討開始	体制整備の検討、実証事業	移行期間①	移行期間②	移行期間③	地域クラブ活動の開始（平日・休日）

ステークホルダー

町内２中学校（白川中学校・黒川中学校）
運営団体（一社）スポーツリンク白川
教育委員会（町コーディネーター・学校教育係・生涯学習係）
新しい学校づくり検討委員会

経過と実施内容

・令和５年度から町にコーディネーターを設置し、部活動地域移行に関する窓口及び推進体制を整備した。令和５年６月に部活動の地域移行に関する説明会を開催し、町の現状と方向性について協議した。その後、令和５年８月に新しい学校づくり検討委員会で「部活動のこれから」と題したブレインストーミングを実施した。その他、令和５年１１月に「白川町の学校再編と小・中学校一貫教育について Ver.３ 部活動」と題したチラシを町内全世帯に配付し、町民向けの広報を実施した。

・令和６年７月には町部活動地域移行推進会議にて「子どもたちにとって望ましいスポーツ（文化）環境とは？」と題し、関係者によるワークショップを行い、情報共有と課題認識の場を持った。その後、令和６年１１月に新しい学校づくり検討委員会で「町の部活動の変遷、今後の方向性等」について検討した。同１１月、１２月には、町内５地区においてまちづくり懇談会を開催し、「白川町の学校再編と小・中学校一貫教育について」と題した資料を参加者に配布・説明を行った。

実施にあたって生じている課題・今後の展開

・白川中学校と黒川中学校の部活動の変遷・現状は異なっており、地域移行の進捗状況にも差異がある。
・令和１１年の学校再編（２中学校の統合）に向けた地域クラブ化について関係者らによる協議が必要である。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和６年 → 令和７年 → 令和８年 → 令和９年 → 令和11年

体制整備の検討、実証事業の実施 → 移行期間 ２年目 → 移行期間 ３年目 → 移行期間 ４年目 → 地域クラブ活動の開始 （平日・休日）

平日及び休日の部活動地域移行を実施

○白川中学校　部活動とクラブ活動の共存

○黒川中学校　部活動とクラブ活動の共存＋白川中学校のクラブ活動に参加する体制を整備

令和６年度の実施内容
①推進体制の確立
●町コーディネーター
●スポーツリンク白川
●町内中学校（２校）
●町部活動地域移行推進会議　ほか
②実施内容
●国の実証事業の取り組み
●新しい学校づくり検討委員会での検討
●各種規定等の整備
③課題等
●持続可能な地域移行の体制の確立
●運営団体「スポーツリンク白川」の体制強化
●町独自のガイドラインの作成
ほか

白川町「地域クラブガイドライン」の作成

移動手段の検討・実証の実施、検証
（通学体制及びスクールバス運行の検討）

指導者謝金の支払い・謝金体制の検証（財源確保の検討）

クラブ運営費の在り方検討（会費・保険・活動費・補助金など）

① 国の実証事業を活用した推進体制の整備（実施と検証）
② 関係者（関係機関及び関係団体）との協議・連携
③ 新しい学校づくり検討委員会（部会）での協議
④ 運営主体となる「スポーツリンク白川」の体制強化

新たなクラブ活動へ移行

学校の再編（２中学校の統合）